

河川景観の分類に関する一考察
(八景を主として)

福 山 大 学 工 学 部 正 員 三 輪 利 英
福 山 大 学 工 学 部 正 員 井 上 矩 之
ア ー バ ン ス タ デ ィ 研 究 所 正 員 藤 埴 忠 司
協 働 福 山 コ ン サ ル タ ン ト 正 員 ○ 浜 縁 法 幸

1. はじめに

河川の重要な役割は治水と利水であるが、この二つの役割に加えて親水というもう一つの役割が、河川審議会の「河川環境のあり方について」の答申（昭和56年12月）において明確に位置づけられている。わが国は国土が狭小であるため、都市内にオープンスペースを確保するのは大変困難であり、その中で河川におけるオープンスペースは益々貴重なものとなってきている。

本研究は、全国一級河川109水系のうち65管轄工事事務所から送付してもらった「河川八景」と題する各河川8枚、総数564枚の写真を用いて、何種類かの典型的な景観を抽出するために分類をおこなう。

2. 構成要素による分類

山並、天空、水面という要素の面積の占める割合から分類をする。写真を6（縦）×4（横）＝24のメッシュに分け、各要素の面積を算出して構成要素の割合を求める。この結果、表1のように564枚の写真が10通りに分類できた。

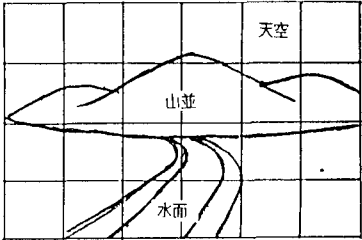


図1 メッシュ法

各アイテムのカテゴリ

面積の割合(%)	カテゴリー
0 ～ 33.33	少ない
33.34 ～ 66.66	普通
66.67 ～ 100.00	多い

分類をした結果、分類記号Aの組み合わせの枚数が最も多かった。枚数の多いものの特徴としては、組み合わせパターンが3つとも「少ない」か、2つが「少ない」で残りが「普通」である組み合わせである。逆に枚数の少ないものは、3つの構成要素のうち「少ない」が2つで「多い」が1つである組合せと、「普通」が2つで「少ない」が1つである組合せである。

このことから、3つの構成要素のうち、「多い」があると枚数が少なくなっている。

また構成要素のバランスがとれている写真が多い。

表1 構成要素による分類

分類記号 (A-J)	構 成 要 素			写真枚数
	山 並	天 空	水 面	
A	少ない	少ない	少ない	223
B	少ない	少ない	普通	79
C	少ない	少ない	多い	5
D	少ない	普通	少ない	87
E	少ない	普通	普通	33
F	少ない	多い	少ない	2
G	普通	少ない	少ない	74
H	普通	少ない	普通	17
I	普通	普通	少ない	3
J	多い	少ない	少ない	41

3. 景による分類

以下の定義にもとづいて写真を自然景、人工景、共存景の3種類に分け、景による分類をおこなう。

「自然景」→写真面積の占める割合において自然物の占める割合が多い写真。

「人工景」→写真面積の占める割合において人工物が多い写真。

「共存景」→上のどちらの景にも属さない写真。

景による分類を行なった結果、図2のようになった。

集計結果より、「共存景」が全体の半分以上を占めている。「自然景」及び「人工景」はほぼ同じ割合とみることができる。このことから選ばれた写真の特徴としては、自然だけの写真、または構造物だけの写真よりも、河川と構造物との調和がとれた写真が多かった。

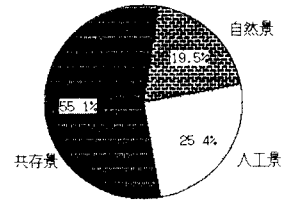


図2 景別の割合

4. 構成要素と景による分類

写真構成要素（山並、天空、水面）と景（自然、人工、共存）とを組み合わせ、564枚の写真を分類すると表2の23通りの型に分類できた。23通りの型のうち、自然景が8、人工景が5、共存景が10である。共存景における組み合わせの特徴は、2. 構成要素の分類と同じであった。また自然景についてみると、天空と水面の2つが「少ない」組み合わせのものが多く、自然景においての自然物として、山並が考えられる。人工景では、山並が「少ない」ものが多く、これは人工景では人工物が中心であるためと考えられる。

表2 構成要素と景による分類

分類番号	山並	天空	水面	景	写真枚数
1	少ない	少ない	少ない	自然	21
2	少ない	少ない	少ない	人工	78
3	少ない	少ない	少ない	共存	124
4	少ない	少ない	普通	自然	9
5	少ない	少ない	普通	人工	26
6	少ない	少ない	普通	共存	44
7	少ない	少ない	多い	自然	5
8	少ない	普通	少ない	人工	2
9	少ない	普通	少ない	共存	34
10	少ない	普通	少ない	共存	51
11	少ない	普通	普通	自然	5
12	少ない	普通	普通	人工	3
13	少ない	普通	普通	共存	25
14	少ない	多い	少ない	共存	2
15	普通	少ない	少ない	自然	29
16	普通	少ない	少ない	人工	2
17	普通	少ない	少ない	共存	43
18	普通	少ない	普通	自然	9
19	普通	少ない	普通	共存	8
20	普通	普通	少ない	自然	1
21	普通	普通	少ない	共存	2
22	多い	少ない	少ない	自然	34
23	多い	少ない	少ない	共存	7

5. 結果と考察

構成要素と景による分類により、23種類の型に分類した。自然のみの写真（自然景）よりも、人工物と河川の写真（共存景）が多かった。「河川景観」は、河川と周囲との調和が大切であるといえる。

今後は分類した23種類の中から、もっとも枚数が多かった型についてその特徴を分析していき、23通りの型をもとにアンケート調査を行う。今回の研究においては構成要素が自然ばかりのものであったが、人工物と調和のとれた写真が多かったので、構成要素としての「人工物の割合」について考える必要がある。

最後に、写真を提供し、協力をいただいた各河川工事事務所に対し感謝の意を表します。

<参考文献>

- 1) 三輪・井上・藤埴・浜縁：河川景観の定量的解析による一考察
土木学会中四国支部 平成元年度発表会講演概要, PP362～363
- 2) 土木学会編：水辺の景観設計 技報堂出版, 昭和63年